

読む

場面のうっぴりかわりをとらえて、感想をまとめよう
 場面ごとに、どんな出来事があったのかをとらえ、何がかわったのかを考えましょう。
 心をうたれた場面を中心に、感想をまとめましょう。

ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ 作

上野 うえの 紀子 のりこ 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さん
 でした。

出征せいする前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖ぞのはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがきき返しました。

「かげおくりって、なあに。」

5

カソソウ
 感想

シユツ
 出征

出征
 へいたいになって、
 ぐんたいに入り、い
 くさ(せんそう)に
 行くこと。

トウ
 お父さん

にい
 お兄ちゃん

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがきき返しました。

「かげおくりって、なあに。」

と、ちいちゃんもたずねました。

「十、^{とお}数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。十、
と言ったら、空を見上げる。すると、かげぼうしが
そっくり空にうつって見える。」

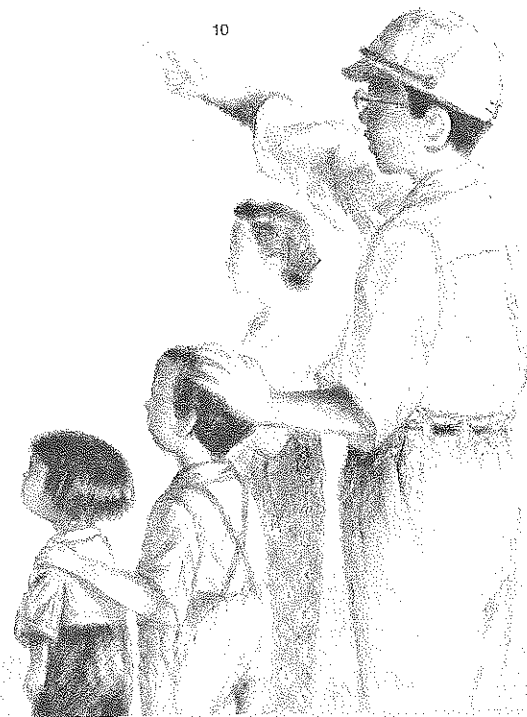
と、お父さんがせつめいしました。

「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」

「ね。今、みんなで作ってみましょうよ。」

と、お母さんが横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は手を



◆お父さん

◆お兄ちゃん

つなぎました。そして、みんなで、かげぼうしに目を落しました。

「まばたきしちゃ、だめよ。」

と、お母さんが注意しました。

「まばたきしないよ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんが、やくそくしました。

「ひとうつ、ふたあつ、みいつつ。」

と、お父さんが数えだしました。

「ようつつ、いつうつ、むうつつ。」

と、お母さんの声もかさなりました。

「ななあつ、やあつつ、こここのうつ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんも、いっしょに数えだしました。

10

5



「とお。」

目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうし



「とお。」

目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうっと空に上がりました。

「すごい。」

と、お兄ちゃんが言いました。

5

「すごい。」

と、ちいちゃんも言いました。

「今日の記念写真ねんだなあ。」

と、お父さんが言いました。

「大きな記念写真なこと。」

10

と、お母さんが言いました。

次の日、お父さんは、白いたすきをかたから

ななめにかけて、日の丸のはたに送られて、列車に乗りました。

「体の弱いお父さんまで、いくさに行かなければならないなんて。」

お母さんがぼつんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。

ちいちゃんとお兄ちゃんは、かげおくりをして遊ぶようになりました。

ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足を開いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。

けれど、いくさがはげしくなって、かげおくりなどできなくなりました。この町の空にも、しょういだんやばくだんをつんだひこうきが、とんでくるようになりました。そうです。広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。

夏のはじめのある夜、くうしゅうけいほうのサイレンで、ちいちゃん

たちは目がさめました。

「さあ、急いで。」

送る

列車

乗る

しょういだん

たてものをやきはらうために作られたばくだん。

くうしゅうけい

ほう

てきのひこうきによるこうげきを知らせる合図。

たちは目がさめました。

「さあ、急いで。」

お母さんの声。

外に出ると、もう、赤い火が、あちこちに上がっていました。

お母さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、走りました。

風の強い日でした。

「こっちに火が回るぞ。」

「川の方ににげるんだ。」

だれかがさけんでいます。

風があつくなくなってきました。ほのおの

うずが追いかけてきます。お母さんは、

ちいちゃんをだき上げて走りました。

10

5

○追いかける

「お兄ちゃん、はぐれちゃだめよ。」

お兄ちゃんがごろびました。足から血が出ています。ひどいけがです。お母さんは、お兄ちゃんをおんぶしました。

「さあ、ちいちゃん、母さんとしっかり走るのよ。」

けれど、たくさんの人に追いつけなかったり、ぶつかったり——、ちい

ちゃんは、お母さんとはぐれました。

「お母ちゃん、お母ちゃん。」

ちいちゃんはさけびました。

そのとき、知らないおじさんが言いました。

「お母ちゃんは、後から来るよ。」

そのおじさんは、ちいちゃんをだいて走ってくれました。



10

5

○橋は

○血ち

お母さんらしい人を見えました。

暗い橋の下に、たくさんの人が集まっていました。ちいちゃんの目に、

暗い橋の下に、たくさんの人が集まっていた。ちいちゃんの目に、お母さんらしい人が見えました。

「お母ちゃん。」

と、ちいちゃんがさけぶと、おじさんは、

「見つかったかい。よかった、よかった。」

と下ろしてくれました。

でも、その人は、お母さんではありませんでした。

ちいちゃんは、ひとりぼっちになりました。ちいちゃんは、たくさん

の人たちの中でねむりました。

朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、

けむりがのこっています。どこがうちなのか――。

「ちいちゃんじゃないの。」

という声。ふりむくと、はすむかいのうちのおばさんが立っています。

「お母ちゃんは。お兄ちゃんは。」

と、おばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやっところえて
言いました。

「おうちのどこ。」

「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。
いっしょに行きましょうか。」

おばさんは、ちいちゃんの手をつないでくれました。二人は歩きだし
ました。

家は、やけ落ちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやって

来て言いました。

ざつのう

いろいろな物を入れて
かたにかける、ぬ
ので作ったかばん。

ほしい

ごはんをほしてかわ
かした食べ物。

ぼうくうごう

ばくだんなどから身
をまもるためにほつ
た、大きなあな。

◆部^へ屋^や

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやって来て言いました。

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」

ちいちゃんは、深くうなずきました。

「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、

今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」

ちいちゃんは、また深くうなずきました。

その夜、ちいちゃんは、ぎつのうの中に入れてあるほしいいを、少し食べました。そして、こわれかかった暗いぼうくうごうの中で、ねむりました。

「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」

くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ま



した。ちいちゃんは、ざつの中のほしいいを、また少しかじりました。そして、こわれかかったぼうくうごうの中でねむりました。

明るい光が顔に当たって、目がさめました。

「まぶしいな。」

ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。ひどくのどがかわいています。いつのまにか、太陽は、高く上がっていました。

そのとき、

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

というお父さんの声が、青い空からふってきました。

10

「ね。今、みんなで作ってみましようよ。」

というお母さんの声も、青い空からふってきました。



5

太陽 ヨウ
暑い あつ
寒い さむ

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった

一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。



ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。

「ひとつ、ふたあつ、みいつつ。」

いつのまにか、お父さんのひくい声がかさなって聞こえだしました。

「ようつつ、いつつつ、むうつつ。」

お母さんの高い声も、それにかさなって聞こえだしました。

「ななあつ、やあつつ、こここのうつ。」

お兄ちゃんのわらいそうな声も、かさなってきました。

「とお。」

ちいちゃんが空を見上げると、青い空に、くっきりと白いかげが四つ。

「お父ちゃん。」

ちいちゃんはよびました。

「お母ちゃん、お兄ちゃん。」

そのとき、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。

一面の空の色。ちいちゃんは、空色の花ばたけの中に立っていました。見回しても、見回しても、花ばたけ。

「きっと、ここ、空の上よ。」

と、ちいちゃんは思いました。

「ああ、あたし、おなかがすいて軽くなったから、ういたのね。」

10

5

○軽^{かる}
い

そのとき、むこうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。

そのとき、おとうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。

「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」

ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。わらいながら、花ばたけの中を走りだしました。

夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。ちいちゃんが一人でかげおくりをした所は、小さな公園になっています。

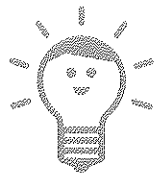
青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。

10

5

命いのち

あまん きみこ
一九三一年、中国
に生まれる。作家。
「車のいろは空のいろ」
「おにたのぼうし」
などの作品がある。



学習

場面のうつつりかわりをとらえて、感想をまとめよう

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、あなたはどんな感想をもちましたか。場面ごとに、出来事や人物の気持ちを考えながら読んでいねいに読みましょう。そして、心をうたれた場面を中心に、感想文を書きましょう。

場面のうつつりかわりをとらえながら読もう

▼この物語は、一行空きによって場面が分かれ、第一と第四の場面に、「かげおくり」の様子がえがかれています。二つの「かげおくり」をくらべましょう。同じところはありますか。ちがうところはどこでしょう。

▼二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。その間に、「ちいちゃん」のまわりからうしなわれていったものは、なんでしょう。

▼第五場面があるのとないのとは、どちらがうと思えますか。第四場面にあるにた表現を見つけて、考えたことを、理由とともに発表しましょう。

感想文を書こう

① いちばん心をうたれたところを書きましょう。

・場面全体を短くまとめたり、心をうたれた文を書きぬいたりする。

・そのときの登場人物の気持ちや場面の様子をそうぞうして、感じたことをくわしく書く。

② 次のような組み立てで、感想文を書きましょう。

①

物語を読んで感じたことなどを

め

書く。

第一



- 場面のうつりかわりをとらえるために、何に注意して読みましたか。
- どんなことに気をつけながら感想文を書きましたか。

▼第五場面があるのとないののでは、どちらがうと思えますか。第四場面にあるにた表現を見つ

け、考えたことを、理由とともに発表しましょう。

〈理由をせつめいするときの言い方〉

• なぜかという、――。理由は、――。

• ――だからです。

▼第五場面について、あなたと友だちの考えて、同じところやちがうところはありましたか。友だちの発表を聞いて、あなたの考えがかわったところはありますか。

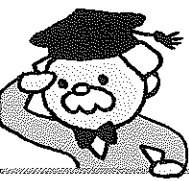
自分の考えをもとう

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、どんなことが心にうかんできましたか。

② 次のような組み立てで、感想文を書きましょう。

終わり	中	はじめ
自分の考えを書く。 ・ 作品を読んで、ねがうこと ・ これから自分がしたいこと など	いちばん心をうたれた場面を中心に、感じたこととその理由を書く。	物語を読んで感じたことなどを書く。 ・ さいしょの感想 ・ 心にのこった言葉 など

「はじめ」や「終わり」が、「中」とつながるようにしましょう。



漢字の広場

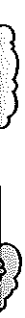
2年生で習った漢字

4

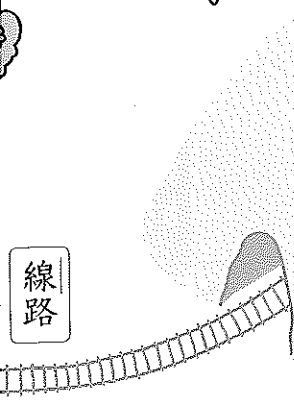
絵の中の町に住んでいるつもりで、町の様子をせつめいする文を書きましょう。

〈へい〉 わたしの家は、町の北の方にあります。近所に、

犬を飼っている家があります。



線路



- 寒 カン さむい
- 陽 ヨウ ヨウ
- 軽 ケイ かるい
- 命 メイ いのち
- 第 ダイ
- 感 カン
- 想 ソウ
- 送 ソウ おくる
- 列 レツ
- 乗 ジョウ のせる

- 追 ツイ おう
- 血 ケツ
- 橋 キョウ はし
- 暑 ショ あつい

145 ページを見よう

▼動作を表す言葉には、にているようでも、ちがう意味を表すものがあります。この物語の中から、次の言葉を見つけ、それぞれの意味のちがいを考えましょう。

言葉



たいせつ

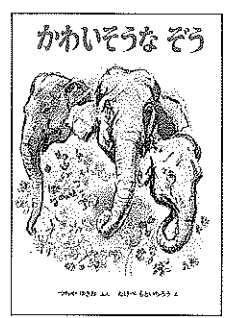
場面のうつりかわりを読む

- 場面を追うことに、どんな出来事があり、何がかわるのかを考えながら読む。
- 文章に書かれていなくても、その間にすぎた時間や、あったことなどをそうぞうする。

- ・「見る」かん に関係のある言葉
- 〈へい〉 見上げる 見つめる
- ・「言う」 に関係のある言葉
- 〈へい〉 つぶやく きき返す
- この本、読もう
- せんそうについて書かれた本を読んでみましょう。



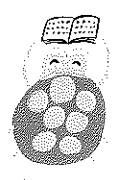
えんびつばな



かわいそうなぞう



おかあさんの木



5

動作